

柱頭斷片を幾許か齎したといつても、極めて僅かであり、従前の通り、バクトリア最初の佛像は將來の發掘を俟たねばならない事となつたのである。

この第一の試みが成功を収めなかつた事實は重要ではあるが、此の點を高調するのは最も慎みたいのである。犍陀羅の發掘では、佛像や浮彫を數多得たのであり、ペシヤワールの博物館を充たせるには、サーリ・バーロール Sahri-Bahlol 小村附近の取るに足らぬ位の數個の塚を掘れば充分な程であるが、トープ・エルスタムでは、之に比して裝飾は極めて貧弱である事を認めるのである。且つ、バルクにある他の諸塔は、恐らく、ナーディル・テツペ Nadir-Teppe を除いては、トープ・エルスタムより一層望みがない様に見えるといはねばならない。かくて終に、此の發掘の消極的な結果と、他方、アフガニスタン領トルキスタンを通じて、良い材料がなく、良い工人が缺けてゐたとなし得た所とを併せ考へて見る時には、バクトルは、嘗て何か本來の美術、殊にギリシア風佛教美術の發生地であつたといふ早計に失する主張は、他に手段を求めらるまでもなく棄て得る事となる。